

小布施まちづくりボイス

小布施まちづくり委員会
facebook ページ
https://m.facebook.com/
439763846093629



「あなたの困りごと、なんてですか？」講演会&ワークショップレポート

話して、聞いて、元気が出る「困りごと」共有 人のつながりや相互扶助を生む新たな糸口

2023年9月10日(日) 於・小布施町公民館講堂
講師：モリテツヤさん

「困りごと」シェアが 政治への糸口に

鳥取県湯梨浜町で書店「汽水空港」を営むモリテツヤさん。「儲からない」といわれる書店経営を維持するため、田畑で食糧を作り、店舗や自宅のセルフレッドを実践しています。

少年時代に「24時間戦えますか」というテレビCMを観て、なぜ戦わなければならないのかという疑問や社会に出ることへの恐怖を感じたというモリさん。その後も折にふれ社会のあり方への疑問や生きづらさに悩んできたことが、

「Whole Crisis Catalog(全人類困りごとカタログ、以下WCC)」の発想につながっていきました。モリさんがWCCづくりを始めるに至った経緯は、次のようなことでした。

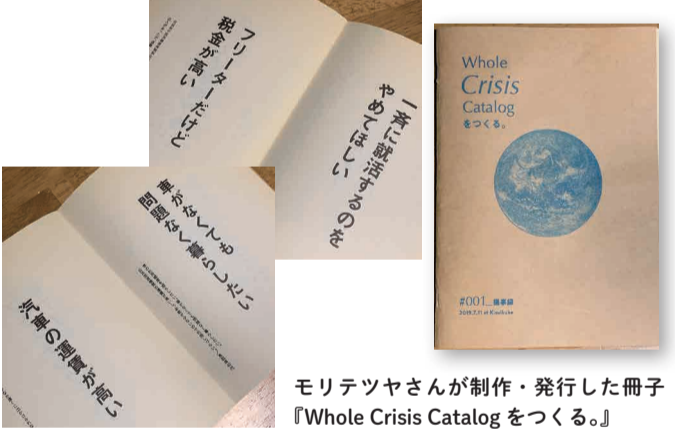
1. 政治に対して投げかける
ボールを作りたい
自分の生活は否応なく政治の影響を受ける。なのに、政治について身近な人と話すことが難しい。なんとか政治に対して投げかけるボールを作れないだろうかと考えたモリさん。あるとき「あなたの困りごとって何ですか？」と

問いかけたことがきっかけで、「困りごと」は世代や考え方の違いを越えて政治を語り合うための糸口になりうると実感したそうです。

2. 投票の判断材料が欲しい
選挙の際に、誰に投票するかを判断するための情報が届かない。選挙カーは候補者名や所属政党を連呼するだけ。メディアが事前に行った候補者アンケートで、質問すべてに無回答だった人がトップ当選するケースも。投票の際には「あの人はお世話になっていてから」などの二次的な理由で決めている人も少なくない。

こんな現状を抜け出し、その候補者が当選したらどんな政策を進めていくのかを知った上で投票先を選びたい。モリさんはそう考え、選挙の際に候補者全員にWCCの冊子を送り、回答を得て判断材料にしました。

「聞いてもらえた」「癒された」……。「元気になった参加者たち」
モリさんが主催したWCCイベントでは、共有された困りごとについて早速解決のアイデアが生まれました。参加していた学生の「本



モリテツヤさんが制作・発行した冊子『Whole Crisis Catalogをつくる。』

が高く買えない」との発言に、「図書館にリクエストすれば、全国どの図書館からでも取り寄せて貸し出してもらえろ」という情報を提供する人が。モリさんは、自店の学割を翌日から始め、今も続けておられます。さらに、この話を聞いた地元NPOの方から、「先着10人限定で汽水空港までの片道分の交通費を補助する」と申し出が。後日、補助を受けた学生たちが、普段若者の姿がまばらな汽水空港周辺に訪れ、買い物をしてくれたことで、街が活気づきました。

また参加者は、「自分の困りごとをこんなに聞いてもらったことはない」「癒された」と、みな元気に帰って帰っていったそうです。モリさんの目下の希望はWCCウェブ版の創設です。全国各地で集められた困りごとを場所ごとに紹介するもので、誰でも閲覧でき、また新たに困りごとを書き込むこともできる……そんなサイトを構想しています。

「アイデア交換、皆さんの気づき」
講演会に続くワークショップ(以下WS)では、町内外から集まった20人余りが一人ひとり困りごとを発表、ホワイトボードに書

困りごとシェア会を開いてみませんか？

WCCに興味があれば、身近な人たちと困りごとシェア体験をしてみませんか？身近な人と2~3人で、お茶を飲みながら話すだけでもOKです。モリさんに伺ったところ、特別なルールは設けず、集まった顔ぶれや会の規模、雰囲気などに応じて柔軟に運営しているそうです。

今回のWSで学んだポイントを以下にご紹介します。

1. 自分の困りごとを話すだけでなく、人の困りごともしっかりと聞く。
2. どんな困りごとでも否定せずに聞く。
3. 必ずしもその場で困りごとを解決しなくてもよい。まずは共有することが大切。
4. 人まかせにしない。自分にも、自分や誰かの困りごとを解決する力があるかもしれないと心得る。

き留めていきました。「忙しくてやりたいことができない」「脚力が落ち、今後の買い物心配」「畑を借りて果樹を育てたいが、伝手が無い」といった身近な悩みから「農家の高齢化で食糧の自給が難しくなる」「戦争に突き進んでいきそうな空気」「ALPS処理水の海への放出」といった社会問題まで、たくさん困りごとを共有しました。

「痩せたいのに運動が継続できない」という困りごとに対し「褒めてもらえる」と継続しやすいから、家族に褒めてもらうなど、解決のアイデアも交わされました。また町議会議員の方から「議会で困りごとの投書箱を設置して、集まった声を町へ届けることも考えたい」との声も。

WS後、「多くの気づきがあった」「まずはいろいろな考え方を知ることが大切」「人の困りごとを聞くだけでも、何かを変えられるかも」「継続的に取り組みたい」などの感想をいただきました。

困りごとWSは、その場で解決することが目的ではなく、参加者同士で互いの困りごとを共有し、ともに考えつづながら、人と人がつながり合い、助け合える関係をつくっていくことが大切。発表していただいた困りごとは、より広く共有できるように、SNSや印刷物などにまとめて公表することを小布施まちづくり委員会にて検討していく予定です。今後の動きは、随時当会Facebookページにてお伝えします。

(広報委員会編集長 中島敏子)



町民のみなさんをはじめ、桜井昌樹町長、町議会議員の方々、また町外からご参加の方とともに、肩書きや立場を越えて思いを語り合いました。



ワークショップで共有された参加者のみなさんの困りごと。

あなたの困りごと何ですか？
飲食店が少くない
畑から開くニラジュウ
鳥の声を聞きたい
水路の水が少くない
高齢者に係る不安
イボイボ
気候変動 世紀末
戦争による不安

ALPS処理水 心配
老後の資金が不安
自分自身の視野のせいで
意欲の減退
部活の指導者不足
ウツ病の薬が効かない
畑仕事は休む日が多い
親にやさしくしてほしい

筋力が落ちて買い物に行けず不安
継続できない
やせたい
物価の高さ
健康
自治会の組織をどう変えていこうか
田んぼもたいが手まわり定まらない
食べ物どうする？

病弱
経済格差
人は信用できない
リフレインで眠る場所がない
体調不良
親の口出し
火田を借りたい
不登校の子が多い
要介護への対応

